

1. 日時 平成28年12月1日(木) 第5校時 13:55~14:40
2. 場所 2年1組 教室
3. 単元名 シリーズ作品を読んで、登場人物の「大好き」を見つけよう 『お手紙』(光村図書・2年下)
4. 指導にあたって

○児童の言葉の力について

本学級の児童は、1学期の「スイミー」の学習では、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む経験をしている。この学習では、単元を貫く言語活動を「レオ＝レオニ作品の好きなところを紹介すること」に設定し、単元の最後には、並行読書で選んだレオ＝レオニの物語の内容と自分の感想を結び付け、まとめの感想を紹介し合った。紹介にむけては、「レオ＝レオニ お気に入りブック」に学習の足跡を少しずつ残し、どの児童も無理なく準備できるよう配慮した。並行読書は、本学級の児童にとって初めての経験だったが、ほとんどの児童が最後まで意欲的に取り組んだ。しかし、その中で、自力で一冊を読み切ること、教師の支援が必要な児童もいた。自分が選んだレオ＝レオニの作品の紹介では、友達のお気に入りブックを見せ合うことにとどまり、感想を言い合って共感したり考えを広げたりする交流には至らなかった。

そこで、本単元では「物語の登場人物の言動について、好きな理由をシリーズ作品と結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う力」をつけたいと考える。教材には、教科書教材の「お手紙」に加え、アーノルド・ローベル作の「ふたりはシリーズ(全4巻(全20話))」を使う。本シリーズの登場人物のがまくんとかえるくんはお互いをいつも大切に思う親友同士である。怒りっぽくて少々融通の利かない性格のがまくんの側には、友達思いの優しい性格のかえるくんがいつもいる。そんな二人の関わりが、コミカルに、ほのぼのと描かれた「ふたりはシリーズ」の魅力に、児童はすぐに惹きつけられることだろう。本単元の単元を貫く言語活動には、「『ふたりはシリーズ』の作品を読み、大好きながまくん、かえるくんについて、友達と交流すること」を設定する。同じ人物が活躍するシリーズ作品を読み進めるなかで、登場人物の色々な面を発見したり、作品間の関係や類似点などに気付いたりすることが期待できる。また、どの作品にも同じ人物が登場するので、友達と共感したり比べたりしながら交流しやすい。作品の共有化が、活発な意見交流につながると期待できる。

まず、単元を通して児童が作品の世界に魅力を感じ、楽しんで読書を進めていけるようにする。第一次の導入では、児童がこれから始まるシリーズ作品の読書に対する期待を十分に膨らませることができるよう、教材との魅力的な出会いを仕組みたい。生活科の新長田図書館見学では、司書に「ふたりはシリーズ」の読み聞かせを依頼する。この魅力的な出会いで、児童は「もっとたくさんがまくんやかえるくんのお話を読みたい。」と意欲をもって、単元の学習に入れるだろう。また、学習の三年生にお気に入りの一話を交流しに行くというゴールを伝え、そのための学習計画を子供達とたてることで、見通しをもって学習が始められるようにする。第二次では、教科書教材「お手紙」の学習を進める。挿絵を使ってあらすじを確認したり、好きな場面やその理由をクラス全体で共有したりし、「登場人物の行動や会話に着目して、好きな場面を見つける。」という読み方を習得させる。「お手紙」には、がまくんとかえるくんの会話文がテンポよく繰り返され、印象的に描かれている。しかし、会話文だけで物語が展開される場面では、誰のせりふか見分けがつかない児童がいるだろう。そこで、音読の時には会話文を色分けして表示した全文プリントを使用し、だれが何を言ったかを明確にして読ませていく。板書については、児童が常に物語全体を見渡しながら、好きな場面を見つけ、その場面について話ができるよう、挿絵や会話文の短冊を使って物語全体が黒板に映し出されるように工夫する。お互いの考えや感想の根拠を、一人ひとりが手元の教科書と黒板で確かめながら読み進めていく授業を目指す。第三次では、並行読書をさらに進め、できるだけたくさん作品を読んでからお気に入り

りの一冊を見つけられるようにする。そのために、読書記録カードや“2年1組読書分布表”を用い、「読みたい」気持ちを継続させる工夫をしていく。また、同一人物で展開するシリーズの特徴を生かし、並行読書を通して登場人物の様々な面を“みつけた”ワークシートに書き溜めていく。こうした活動を通して、登場人物の一面だけではなく、色々な面を発見することに面白さを感じていくだろう。そして、見つけたことを友達と発表し合うなかで、一人では感じられなかった登場人物の意外な一面に驚いたり感心したりと、作品の世界観が広がることが期待できる。また、「〇〇の話の時のがまくんは～やったよ。」「でも△△の話の時は、かえるくんは～なことしてたで。」と、友達と自分の考えを共感したり比べたりしながら、活発な意見交流が行えるだろう。そして第四次では、三年生にお気に入りの一話を紹介する。去年ふたりはシリーズを読書した三年生に発表紹介することで、一方的な発表ではなく、作品や人物についての感想を返すなどの、対話的交流に発展することが期待される。本単元を通して、作品を読んで自分が感じたことや考えたことを発表し合うという交流を行うことで、ものの考え方や感じ方の幅が広がればと期待する。登場人物の行動や会話に着目して想像を膨らませながら楽しんでお話を読み、「ふたりはシリーズ」のがまくんとかえるくんのほのぼのとしたお話の世界に読書の楽しみを広げていって欲しいと考える。

5. 単元目標

- ◎物語の登場人物の言動について、好きな理由をシリーズ作品と結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うことができる。 (C 読むこと オ)
- ・場面の様子について、登場人物の会話や行動を中心に想像を広げながら読むことができる。 (C 読むこと ウ)
- ・シリーズ作品を読み、紹介したい本や文章を選んで読むことができる。 (C 読むこと カ)

6. 単元の評価規準

ア.国語への関心・意欲・態度	イ.読む能力	ウ. 言語についての知識・理解・技能
1. 「ふたりはシリーズ」の物語について、自分の好きな登場人物の言動、お気に入りの場面などを見つけて楽しんで読もうとしている。 2. 大好きがまくん・かえるくんカードを使って、意欲的に3年生と交流しようとしている。	1. 自分がおもしろいと思った場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいる。(ウ) 2. 物語の登場人物の言動について、好きな理由をシリーズ作品と結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合っている。(オ) 3. シリーズ作品を読んで、好きな作品を選んでいる。(カ)	1. 文の中における主語と述語の関係に注意して文章を読んでいる。(伝イ・(カ))

7. 単元の指導と評価の計画 (全 13 時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価
並 行 読 書	1	<ul style="list-style-type: none"> ふたりはシリーズの作品(おちば)の読み聞かせを聞き、おもしろいところや、がまくんかえるくんの好きなところを交流する。 がまくん、かえるくんが登場する作品シリーズの中で色々ながまくんかえるくんに出会い、大好きながまくんかえるくんを見つけて、クラスの友達と交流する。そして、最後は『なかよしブック』を使って、三年生に交流していくことが学習課題であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> がまくんやかえるくんの言動に着目させ、自由に感想を言わせる。「このお話のように友達との勘違いしたような経験はあるかな。」と問い、自分の経験とも結びつけた感想が少し述べられるように仕組む。 教師が『なかよしブック』を見せ、第四次の言語活動のイメージをもたせる。 並行読書を進めるにあたって、読んだ本には色塗りしたり、読書カードについている“みいつけた”ワークシートを使ったりしてがまくんとかえるくんのいろいろな人物像を見つけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもってお話を聞いたり、感想を言ったりしようとしている。(ア. 1 観察)
	2	<ul style="list-style-type: none"> 「お手紙」の読み聞かせを聞く。 挿絵を並び替える作業を通して、がまくんかえるくんのしたこと(あらすじ)を確かめながら、全員で「お手紙」を通読する。 →ブック① 1場面 	<ul style="list-style-type: none"> 会話文が色分けされた全文プリントを使い、話の場面やどちらの会話かを確認しながら聞くように声をかける。 挿絵をバラバラにして、パズルのように並び替える作業を通して、物語の全体像を掴む。 話のあらすじをカードに書く際には、定型文“～が～～する話です。”を準備しておき、全員が書きやすい型をつかっておく。 例)「お手紙」は、かえるくんが、がまくんに、お手紙を書くお話です。 	<ul style="list-style-type: none"> 「誰が」「どんなこと」をした話かを捉えながら読んでいる。(ウ1 ワークシート) 登場人物の行動や会話に着目し、読んでいる。(イ1 挿絵並び替え・ブック)
	3 4	<ul style="list-style-type: none"> 「お手紙」のなかでの好きながまくんやかえるくんの言動が表れている場面を見つけながら通読する。 がまくんかえるくんの好きな言動を出し合い、なぜその場面が好きなのかについて、友達と意見交流する。 →ブック② 2場面 	<ul style="list-style-type: none"> 物語全体を見渡しながら、おもしろいと思ったところや好きな場面についてどこからでも話ができるように、挿絵・会話文の短冊を使って物語全体が黒板に映し出されるようにしておく。 叙述からいきなり見つけるのが難しい児童も多いので、好きな挿絵を聞くところから入り、叙述を見つけられるようにしていく。 友達の好きなところを視覚的に捉えられるようマグネットを貼り、全員が自分の意見を表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> お話のおもしろい場面や好きな場面を見つけている。(イ2 発言・カード)
	5	<ul style="list-style-type: none"> 「お手紙」の好きながまくんかえるくん交流会をする。 4人の班でがまくんかえるくんの人物像を話し合う。 班で出し合った考えを、クラスで交流する。 →ブック① 3場面 	<ul style="list-style-type: none"> 前時考えた自分の好きながまくんかえるくんの場面から分かる、登場人物の性格を考え、班のなかで発表する。 班での交流がスムーズに進むようにするために、グループでの交流の仕方を提示する。一巡目は全員が自分の意見を発表し、二巡目は班のなかで相談し、その場で考えていくようにする。 全体での交流場面では、友達の考えを聞くことで、新たな面が見つけられた。というような感想を拾い、広めていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな場面から、がまくんかえるくんの人物像を見つけている。(イ2 発言・ブック)

三	6	<ul style="list-style-type: none"> 他の作品に出てくる、がまくんかえるくんを見つけながら、シリーズ作品を読む。 → “みいつけた” ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> なるべく多くの作品を読んで、一冊を選定できるよう、読書分布表を使い、人気のある本や、まだなかなか読まれていない本など、子供達に紹介していく。 読書記録カードを事前にチェックしておき、ここまでの並行読書ではなかなか自力で本を読み進められない児童には読み聞かせコーナーを作り、意欲をもって学習を進めていけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な作品を読み、からがまくんかえるくんの人物像を楽しんで見つけている。 (ア1 発言) 様々な作品から見つけたがまくんかえるくんの人物像をカードに書いている。 (イ3 発言・ワークシート)
	7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの「ふたりはシリーズ」の作品を選定する。 →ブック② 1場面 お気に入りの「ふたりはシリーズ」の大好きがまくんとかえるくんを見つける。 →ブック② 2場面 	<ul style="list-style-type: none"> “みいつけた” ワークシートなどを参考にし、大好きながまくん、かえるくんを選んだ理由をはっきりとさせた上で一冊を選定させるようにする。 好きな場面を見つけることに戸惑っている児童には、「お手紙」の学習の時のように挿絵から選び、叙述に戻るよう声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの作品をシリーズの中から選んでいる。 (イ3 カード)
	10 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の読んだ「ふたりはシリーズ」の作品全体を通して捉えたがまくんとかえるくんの人物像について、友達と考えを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自が読んだ複数作品から見えるがまくんとかえるくんの人物像を出し合うことにより、クラスでシリーズ全体を話題にすることができる。複数作品を読んだからこそ見える登場人物の色々な面を、クラスで共有していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な作品を読み、からがまくんかえるくんの人物像を見つけている。 (イ2 発言・カード)
	11	<ul style="list-style-type: none"> なかよしブックを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と交流して、書き足すところを仕上げたり、紹介の時に見せる背面の絵などを書き上げたりし、ブックを完成させる。 	
四	12 13	<ul style="list-style-type: none"> “なかよしブック”を使って三年生に本の紹介をする練習をする。 三年生にふたりはシリーズの交流会をしに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 4人の生活班で、互いにアドバイスをしながら、紹介の練習をする。 背面には、選んだ作品のお気に入りの絵を描かせ、それを見せながら、はっきりとした声で紹介できるようにアドバイスを行う。 三年生には事前に交流の意図を伝えておき、感想を返したりがまくんかえるくんの人物像についてコメントをしたりしてもらえよう、頼んでおく。 	<ul style="list-style-type: none"> 三年生に紹介するために、意欲的に練習している。 (ア2 練習の様子) お気に入りの作品を意欲的に三年生に紹介している。 (ア2 紹介の様子) 三年生と作品の内容について、交流している。 (イ2 交流の様子)